

報道関係者各位

株式会社タム・タム  
2026年3月17日

## 【調査】親子でミニ四駆、9割超が「会話が増えた」と実感 3月24日「ミニ四駆の日」を前に、全国17店舗で多世代交流の実態を調査

ものづくりの楽しさと創造力を提供する国内最大級の総合ホビーショップ、株式会社タム・タム（本社：愛知県名古屋市、代表取締役社長：安藤 治）は、3月24日の「ミニ四駆の日」に合わせ、全国の店舗利用者を対象とした「親子で楽しむミニ四駆に関する実態調査」を実施いたしました。

本調査の結果、かつてのブームに熱中した30～40代が親となり、現在は自分の子どもと一緒にミニ四駆を楽しむ「二世代会帰」の実態が明らかになりました。特筆すべきは、親子でミニ四駆を楽しむ家庭の93.1%が「親子の会話の量や内容が増えた」と回答している点です。デジタルコンテンツが普及する現代において、ミニ四駆が共通の話題となり、家庭内のコミュニケーションを円滑にする一助となっていることが浮き彫りとなりました。

### 【調査概要】

- ・テーマ：ミニ四駆を通じた親子コミュニケーションに関する実態調査
- ・対象者：全国のホビーショップタムタム利用者（20代～50代以上の男女）
- ・有効回答数：148
- ・期間：2026年2月7日（土）～3月4日（水）
- ・地域：全国（北海道から九州まで展開する「ホビーショップタムタム」全17店舗）
- ・方法：店頭での用紙回答およびウェブアンケート（Googleフォーム）

### 【調査結果のポイント】

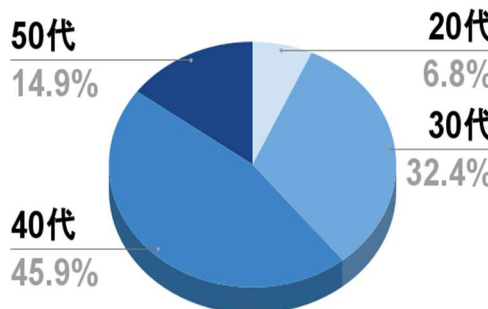
- ・親子の会話が劇的変化  
93.1%が「親子の会話の量や内容が増えた」と実感。
- ・二世代会帰で繋ぐホビー  
回答者の45.9%が40代。かつてのブーム世代が親として「教える側」に。
- ・脱デジタルへの期待  
約3割が、ミニ四駆に熱中することで「デジタルコンテンツの利用時間が減った」と回答。
- ・「考える力」の育成  
自由記述では「子どもが自分で考えて改造するようになった」など、教育的効果を実感する声が多数。

### 【調査詳細】

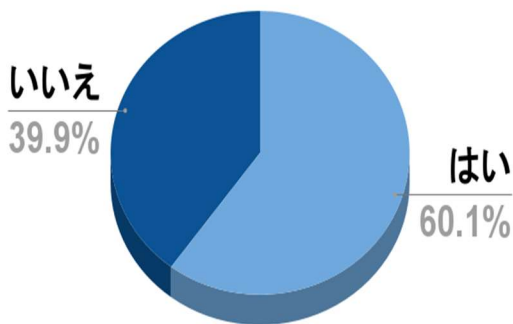
質問：年齢を教えてください（選択式）

回答者で最も多かったのは40代で45.9%でした。

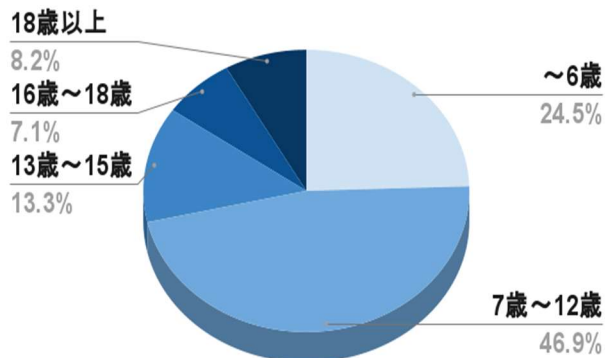
1980年代末～90年代の“ミニ四駆黄金世代”が現在も愛好家層を牽引していると言えます。



質問: お子様はいらっしゃいますか(選択式)

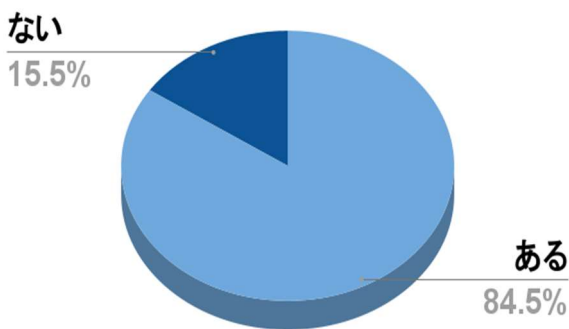


質問: お子さまの年齢を教えてください(複数回答)



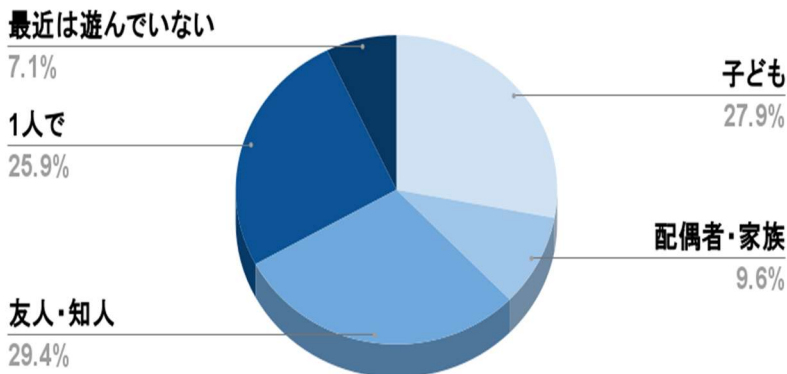
7~12歳の小学生が約半数（46.9%）を占め、次いで未就学児が24.5%でした。  
未就学児の段階からミニ四駆に触れる家庭が一定数存在している実態が分かりました。年齢が低いうちから親御さんと一緒にミニ四駆を始めるケースが多い傾向にあります。  
また、中学生以上のお子様を持つ世帯も一定数（約3割）存在しており、成長後も親子共通の趣味としてミニ四駆を継続して楽しんでいる世帯があることも確認できました。

質問: 子どものころ、ミニ四駆で遊んだ経験はありますか(選択式)



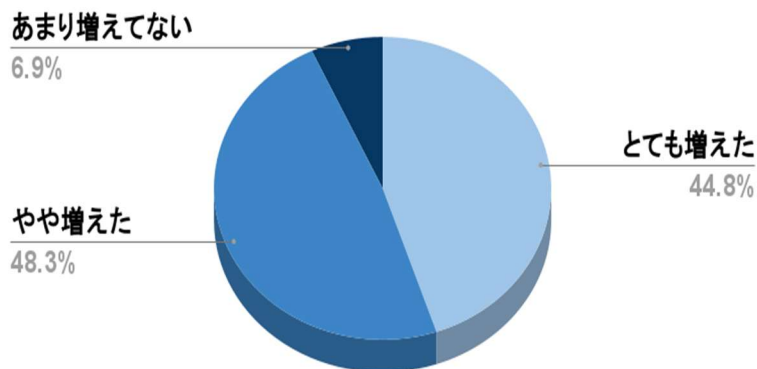
子どもの頃にミニ四駆で遊んだことのある方は84.5%でした。  
かつてのミニ四駆ブーム時に夢中になった経験が、大人になってから再びミニ四駆を手にする、あるいは自分の子どもに教えるきっかけ(動機)になっていることが推察されます。

質問: 現在、ミニ四駆は誰と遊んでいますか(複数回答)



「友人・知人(29.4%)」と「子ども(27.9%)」がほぼ並ぶ結果となりました。  
単なる個人の趣味に留まらず、家庭内のコミュニケーションや、身近なコミュニティを形成するツールとしてミニ四駆が活用されている実態が見えてきます。

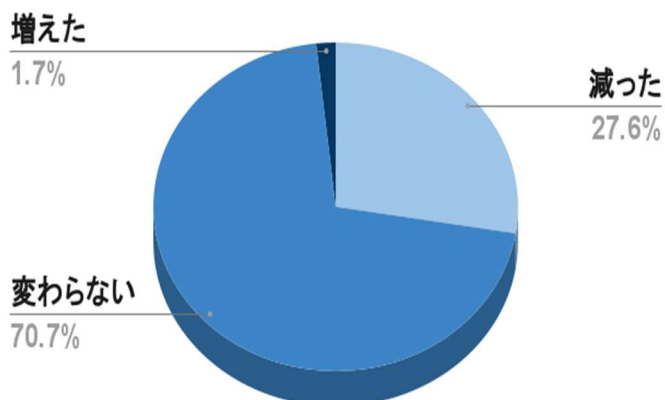
質問：親子でミニ四駆を楽しむようになってから、親子の会話や量は増えましたか(選択式)



「とても増えた(44.8%)」と「やや増えた(48.3%)」を合わせると、親子でミニ四駆を楽しんでいる層の93.1%が、会話の増加を実感していることがわかりました。

ミニ四駆という共通の話題が、家庭内でのコミュニケーションを活性化させる有力なきっかけになっていることが伺えます。

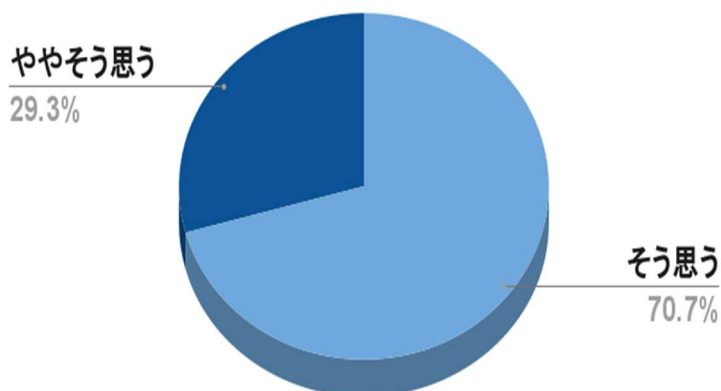
質問：ミニ四駆を楽しむようになってから、ご自身やお子様ゲームやスマートフォンなどのデジタルコンテンツに費やす時間は変化しましたか(選択式)



「変わらない(70%)」との回答が多数を占める一方、約3割が「(デジタル利用が)減った」と回答。

スマホやゲームから離れ、物理的な工作やサーキットでの走行に没頭する時間が、デジタル過多な生活における「オフラインの時間」を創出している側面が見て取れます。

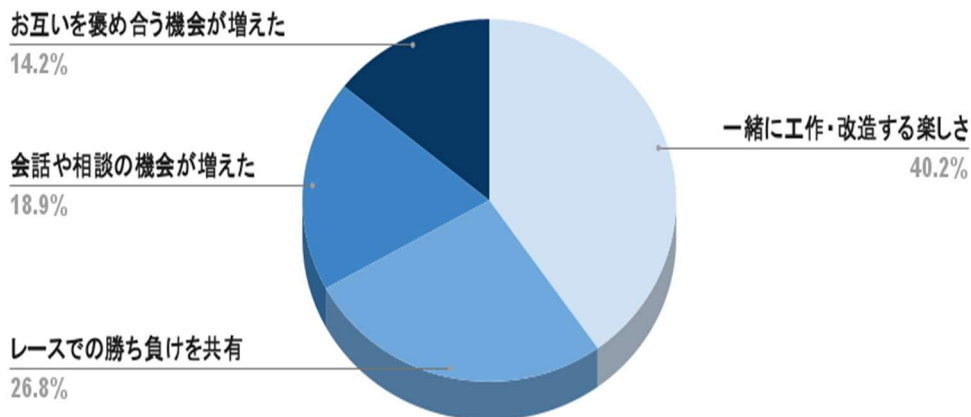
質問：ミニ四駆は親子のコミュニケーションに良い影響を与える趣味だと思いますか(選択式)



「そう思う(70.7%)」と「ややそう思う(29.3%)」を合わせると、回答者全員(100%)がミニ四駆は親子のコミュニケーションに良い影響を与えると回答しました。

実際に親子でミニ四駆を楽しんでいる層の9割以上が「会話が増えた」と実感している結果を裏付けるように、実体験としてそのポジティブな影響を強く感じていることが、この極めて高い肯定率につながったと考えられます。

質問：ミニ四駆を通して、親子で共有できた体験や学びはどのようなものがありますか(複数回答)



最も多かった回答は「一緒に工作・改造する楽しさ」(40.2%)で、次いで「目標に向かって努力する姿勢」などが続きました。

ミニ四駆というホビーが、親子で創意工夫や達成感を共有するきっかけとして機能していると言えます。

## 【全体分析と展望】

### ～ミニ四駆がつなぐ、二世世代の絆～

今回の調査では、かつてミニ四駆ブームに熱中した世代が親となり、今度は自分の子どもと一緒に楽しむ「二世世代回帰」の動きが顕著に現れました。アンケート回答者の中心が40代であったこともあり、自由記述からは「30年前の自分のマシンを今、子が使っている」「自分の子ども時代の体験を、子に語る機会が増えた」といった、世代間の対話が生まれている点が非常に印象的です。

また、思春期に差し掛かり会話が減りがちな中高生のお子様を持つ世帯においても、ミニ四駆が「共通の話題」として機能していることは注目に値します。個人の完結した楽しみになりがちな現代において、ミニ四駆は「共同作業」や「リアルな場での競い合い」という要素を含みます。これが結果として、否定的な回答がゼロという、家庭内のコミュニケーションにおける確信的な評価に結びついていると言えます。

タム・タムは、サーキットを併設する総合ホビーショップとして、地域の親子や愛好家がミニ四駆という共通の趣味を通じてつなげる温かみのあるコミュニティの場を提供し続けます。ミニ四駆が、時代を超えて親子を笑顔にする架け橋であり続けるようこれからも「つくるホビー」の楽しさを提供してまいります。

### ◆株式会社タム・タム◆

プラモデル、鉄道模型、ミニカーなど幅広いジャンルの商品を取り扱っていることが特徴の総合ホビーショップです。1975年に岐阜県で創業。現在、北は札幌、南は福岡まで全国に17店舗、ホビーショップタムタム1/2を岐阜に1店舗、中古品を扱うリユースホビークルクルを関東で2店舗展開しています(2026年2月現在)。

電子ゲームの取り扱いはなく、「ものづくりを大切に、楽しんでほしい」という創業者の想いのもと、つくるホビーにこだわっています。ラジコンサーキットやミニッツサーキット、ミニ四駆サーキットを併設する店舗もあり、地域の方々が趣味を通してつなげるコミュニティの場としても活用いただいています。

<公式サイト> <https://hs-tamtam.co.jp/>

《お問い合わせ先》

広報担当 池田

携帯:080-5809-4171. e-mail:pr@hs-tamtam.co.jp